



天霧城の白米流し

天霧山は、三豊郡・普通寺市・仲多度郡にまたがる山。頂上には、天霧城がそびえて香川という城主がいました。城の東側には、仲多度郡の平野が豊かに広がり、北側は山ろく近くまで瀬戸内海がせまっています。さらに、鳥坂峠を越えた南側には五岳の山々が、屏風をたてたような格好でたちはだかっています。

この天霧城を攻めようと、土佐から長宗我部ちやうそがべという大将が多くの軍勢を連れてやって来ました。土佐軍の作戦は兵糧攻めひやうこう。食料を運ぶ道も、飲料水路も断ってしまいました。さあ、大変です。水がないと、生活できません。城山から白米を流して「水は、まだ、あるよ。」と、見せかけたのです。遠くから眺めると、ほんとうに水が流れているように見えるのです。これはやすやすと攻められないぞとしばらく様子を見てみると、向こうから一人の尼さんが歩いて来ました。「あの白いのは水か」とたずねると尼さんは、「なに、おん大将の目は節穴か。よーくご覧ください。あれは白い米を流したり、白い布を置いたりして水を見せているんじゃない」と言いました。

そこで安心して一気に攻めたて、激戦の末城は落ち、城兵は全滅しました。さて、あれは水ではない。白米だと密告した尼さんはどうなったのでしょうか。

味方の秘密を敵に知らせた尼さんは、天霧城の城兵たちに捕らえられて、斬り殺されてしまいましたとか。

こんなことがあってから、「あまぎり尼斬山」と言われるようになったそうです。戦国時代の悲しいお話です。

なお、天霧城歴代城主のお墓は、弥谷寺にひっそりと建てられています。無名戦士の墓にもこげがむし、雑草に埋もれているのが哀れを誘います。



五岳の山々



白米を流したであろう天霧山頂近くの堀切